多焦点眼内レンズの術後満足度

「オデッセイ」「ビビティ」の両眼挿入症例と
「両者の組み合わせ（Mix & Match）」の3グループを比較した研究のご報告。

この研究のねらい

今回の研究では
「近方視に強いが夜間視が弱い多焦点レンズ」と**「夜間視に強いが近方視が弱い多焦点レンズ」**を左右それぞれに挿入し、両眼視でそれぞれのレンズの弱い点を補い合うとされるMix＆Matchの有用性を、距離別の視力の実測値、満足度、夜間視の見え方、満足度の点から検証することを目的としました。

対象・期間・比較した内容

対象	期間	評価項目
81例 162眼	2023.11 ～ 2025.7	3距離の裸眼視力（遠5m・中70cm・近30cm）／見え方満足度／夜間の光の見え方／手術満足度

比較した3つのグループ

O群　オデッセイ両眼

54例 108眼
平均 69.7歳

回折型（かいせつがた）
遠～近の焦点深度拡張型

V群　ビビティ両眼

11例 22眼
平均 74.0歳

非回折型（ひかいせつがた）
遠～中の焦点深度拡張型

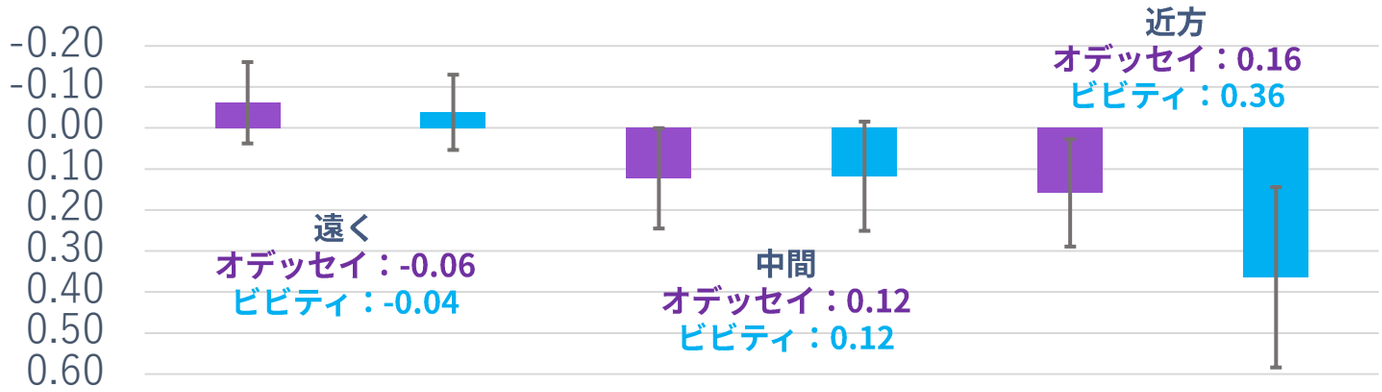
M群　Mix & Match

16例 32眼
平均 65.9歳

組み合わせ
片眼オデッセイ＋片眼ビビティ

結果① 視力表で測った視力　（3つの距離を裸眼で測定）

視力表で、遠く（5m）・中間（70cm）・近く（30cm）の3つの距離を、
眼鏡なしでどのくらい見えるかを測りました。
数値は**LogMAR視力**（ログマー：*数値が小さいほど良好*）で表示しています。



読み方：遠くと中間の視力は、オデッセイもビビティもほぼ同じ数値で有意差なし(p>0.05)、
近くの視力は、優位にオデッセイが良好な結果となりました。(p<0.001)

第49回 日本眼科手術学会学術総会（2026年1月31日）発表内容より作成。倫理審査委員会承認済／利益相反：該当なし。

患者様アンケートの結果（5段階評価）

術後1か月時点でアンケートを実施。5点が「とても満足／症状なし」、1点が「不満足／症状が強い」を意味します。

結果② 見え方の満足度　高いほど「よく見える」と感じている



読み方：遠く・中間はどのグループも **約4点前後** で差がありませんでした。
近くの見え方は 両眼**オデッセイ(3.56)が最も高く、Mix & Match(2.81)を有意に上回りました**(p<0.01)。
オデッセイとビビティのMix＆Matchは両眼ビビティよりも低い満足度となっていました。

結果③ 夜間の光の見え方　高いほど「症状が少ない・気にならない」

多焦点レンズでは、夜間に光がにじんで見える症状が出ることがあります。
3種類の症状を、頻度・程度・生活支障で評価しました。
グレア（強い光をまぶしく感じる）／**ハロー**（光の周りに輪が見える）／**スターバースト**（光が放射状に広がる）。

ハロー（光の輪）の頻度・程度・生活支障



読み方：ハローの頻度・程度は、ビビティが有意に良好でした。(p=0.002 / p=0.026)
ただし「生活への支障」で見ると、3群とも約4点で有意差を認めませんでした。(p>0.05)
日常生活に大きな支障においては有意差を認めず、同程度の生活を送る事が出来る可能性が示唆。

参考：グレア・スターバースト（いずれも3群間で有意差なし）
グレア（頻度／程度／支障）：O群 3.85 / 4.22 / 4.00 V群 4.64 / 4.36 / 4.64　M群 4.13 / 4.38 / 4.13
スターバースト（頻度／程度／支障）：O群 4.30 / 4.26 / 4.33 V群 4.82 / 4.73 / 4.91　M群 4.13 / 4.06 / 4.31
いずれも3群とも高いスコアで、統計的な差はありません（p>0.05）。

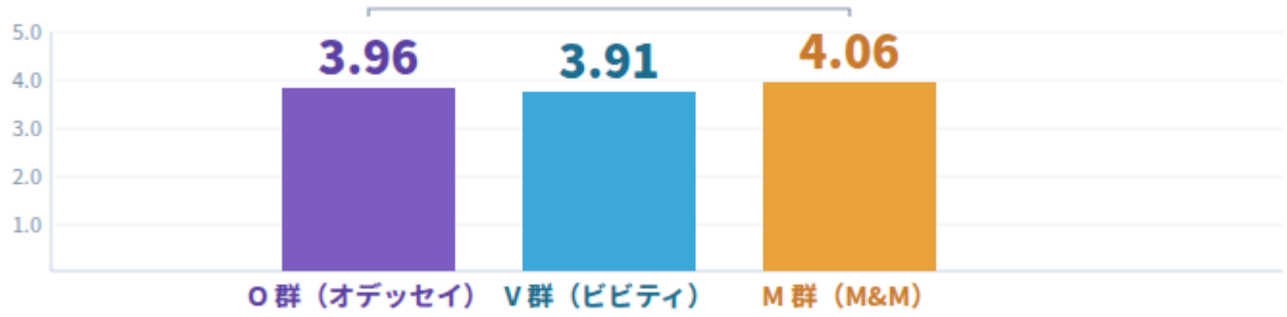
p値：統計的にどの程度確かな差かを示す指標。0.05未満で「明らかに差がある（有意差あり）」と判定します。

全体の結論とレンズ選びのポイント

前ページまでの結果を総合し、患者様のレンズ選びに役立つポイントをまとめました。

結果④ 手術全体の満足度

「手術を受けて良かったか」の5段階評価



結論：手術全体の満足度は**3群とも約4点で高く、有意差を認めませんでした。**
個別に「近くの見え方」や「夜間の光」で差があっても、
全体としてはどのレンズを選んでも平均して良好な満足度であることがわかりました

組み合わせ別の特徴

O群
両眼オデッセイ

近くの見え方・満足度が最も高い
ハローは他群より多い傾向あり

V群
両眼ビビティ

夜間の光のにじみ（ハロー）が最も少ない
近く(30〜40cm)は眼鏡使用になる可能性が高い

M群
Mix & Match

理論的には両方の長所を活かせますが
夜間視は両眼ビビティと有意差がなく、近くの満足度はオデッセイ両眼より低め。

まとめ

Mix＆Match症例においても、両眼同一レンズ挿入例と同程度の満足度を得られることが示唆されました。

ただし、近方視の満足度においては、有意差はないものの、Mix＆Match症例で近方視に弱いビビティ両眼挿入例よりも低いスコアとなっていました。
このことから、必ずしも「よく見える」＝「高い満足度」ではない事が考えられます。

当院では患者様に満足していただくために、「術後に見たい距離」や「希望のライフスタイル」をお伺いし、適切な多焦点眼内レンズをご提案・ご相談しております。
何か気になる点がございましたら、お気軽に医師・スタッフまでお声がけください。

用語補足

多焦点眼内レンズ＝遠く・中間・近くの複数距離が見えるレンズ／**裸眼視力**＝眼鏡やコンタクトなしで測る視力／
LogMAR視力＝視力の数値表記の一種、値が小さいほど良好／**グレア**＝光をまぶしく感じる／
ハロー＝光の周りに輪が見える／**スターバースト**＝光が放射状に広がって見える／**p値**＝0.05未満で「差がある」と判定する統計指標

第49回 日本眼科手術学会学術総会（2026年1月31日）発表内容より作成。倫理審査委員会承認済／利益相反：該当なし。